

開催地名：和歌山県橋本市	
開催日時	令和5年2月26日（日） 13：15 ～ 14：45
開催場所	橋本市サカイキャニング産業文化会館
語り部	菅野 澄枝 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織、橋本市危機管理室、聴覚障害者団体等 約300名
開催経緯	<p>当市では、南海トラフ巨大地震及び中央構造線断層帯地震による被害を想定しており、地域ごとのハザードマップの作成や地域防災計画等を策定している。各地域の自主防災組織の重要性、自助・共助の考え方の重要性などの普及啓発が課題となっている。</p>
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>私が住んでいる仙台市宮城野区の岩切地区は、沿岸部から内陸に向けて10キロほど入った地点にあるため、直接の津波被害はなかった。しかし、近隣にある七北田川からの津波の逆流や、沿岸部の住民の避難所での受け入れもあり、指定避難所は避難民であふれた。また、地盤の関係で仙台市内でも宮城野区は最大震度を記録し、私の自宅を含めて全壊や半壊の世帯も多く出た。宮城野区内での被害状況は、死者904人、行方不明27人、全壊世帯30,034世帯、大規模半壊27,016世帯、半壊82,593世帯となっている。</p> <p>東日本大震災の犠牲者の方々の死因は、津波による溺死が圧倒的に多い。阪神・淡路大震災の際は、家屋の倒壊や家具などの転倒による圧迫死がほとんどだったことを考えると、地震の揺れに対する対策はできていたと言える。それは、44年前に発生し、28名の死者を出した宮城県沖地震以降、宮城県では大きな地震に対する意識が常にあったことによる。いつ起こるかわからない地震に対する備えの意識が、県民の間で一定程度浸透していたのだ。</p> <p>（２）仙台市防災リーダー（SBL）</p> <p>東日本大震災が起こるおよそ9か月前の平成22年6月に、仙台市宮城野区の総合防災訓練で「岩切・女性たちの防災宣言」が発表された。当時の女性区長が「日中に大地震が発生したら、家にいるのは女性が多い。女性の視点で防災対策を進める意義は大きい。」と提案したのがきっかけだった。宣言は、仕事で夫や父親が家にいない状況での心の備えを促す言葉で構成され、「私たちは、ここ岩切でみんなが安心して暮らすために、自分たちでできることを考え行動します。大切な人の命を守るために。この地域で育つ子供たちのために。」と結ばれている。翌年に東日本大震災が発生し、大勢の被災者が避難を余儀なくされた非常事態の中で、防災宣言を作ったメンバーは自然と行動を起こした。そこから、SBL（仙台市防災リーダー）という動きも始まった。家庭、地域で協力し助け合い、自主防災活動を推進するために、防災に関する知識と技術を持つ市民を養成しようとするねらいであった。どのような人がSBLになるのかというと、連合町内会の推薦を受けた人が一般公募によるもので、2日間の養成講座の受講が必要である。運用上、町内会の防災担当者（中高年男性）が多いのが特徴だ。</p> <p>防災は、自分一人で取り組むものではない。みんなが自分の問題と思い、力を合わせて取り組むことで大きな力となる。SBLは仙台市特有の地域防災の動きである。SBLの養成は仙台市が行っているが、実際の活動は町内会が主体であり、町内会を支援する</p>

組織である。各町内会連合会ごとに5人の配置を目指しており、現在は合計774人のSBLが活躍中で、そのうち、女性は189人とどまっているため、今後の女性の積極的な参加が期待されている。

平常時の活動としては、地域の実情に応じた実践的な防災訓練等の企画・運営や地域住民に対する情報提供、啓発活動、指定避難所の運営に関する学校をはじめとした関係団体との協議・連携、災害時要援護者の支援体制の整備などが挙げられる。顔の見える関係づくりと、災害に対する備えの推進である。そして発災時には、避難誘導、災害時要援護者の支援、避難所の開設・運営、避難者の支援などが役割となる。平常時の活動が発災時の活動のためのベースとなるため、自主防災組織と協力し、その構成メンバーとして平常時からの顔の見える関係作りが重要である。SBLは実働部隊という側面はもとより、地域住民に防災活動を啓蒙していくことも重要な任務であると考えている。

(3) 地域防災とは

お互いのことを思い合える状況があつてこそ、自分で頑張る力が出てくる。地域というのは、そういった思いの積み重ねではないかと強く思う。そして、無理なく、楽しく、末永く活動を継続していくことが重要である。一人では難しいことも、仲間と一緒に協力してあたられば、もう一歩上のステージに進んでいくことができる。そして、仲良しグループで無難に事を進めるのではなく、多様な意見を聞き、参考にすることで、よりよいアイデアや方法を見つけていくことも必要である。無いものを欲しがらず、あるもので対応していくことも必要だ。そして、私の町だから当たり前が私が守る、私だけではできないから、みんなの力を集めて守っていくというスタンスで、是非皆さんの地域での防災活動を推進していただきたいと思う。



開催地より

東日本大震災の体験談を交えながら、女性視点の避難所運営についてや、仙台市地域防災リーダー（SBL）としての活動についてお話しいただいた。今日の講演を受けて本市では、自主防災活動における女性の参画と自助・共助の重要性の周知について、取り組みを強化していきたい。